

色を澤山といつて並べて並べて立派な形が出来た。美代ちゃんには豫定があつたのである。餘計な事して子供の獨創を破壊す所であつた。あゝよかつたと保母は思つた。

十二時近く太鼓の組のお歸り時間が來た。太鼓になる、太鼓の組の子供は貼紙帳を片付けて出て行く、残つた子供もボツ／＼お仕舞する。

一同が食前のお手洗ひをし、お辨當を喰べて後は一つ時お庭で遊ぶ。午後の貼紙が始つて午前に入れなかつた子供が待ち兼ねて入る。午後の手技も終つてお片付け當番は鐘

断 片

ぽか／＼と注意力のない無邪氣な、いたづらつ子のKちゃんをとりまいて、尋常科の子等が遊んでゐた。「Kちゃんには母さんがないな」こんな言葉をふと私は耳にとめて日頃のKちゃんに何となく思ひあたるふしがあつた。そんな子等の群から靜かに連れ出して、私はしばらくKちゃんを遊んだ。そしてあとでこんなことを云ひあつた。

の組、手別けして腰掛を机上にのせる。草履のぬぎ放し、忘れた帽子、クレオンの缺けまでも拾ひ集める。貼紙帳の積み重ねたるを糊猪口を保母室に運ぶ。お庭の遊戲具もそれ／＼取り纏めて當番の一同は受持保母のもとに集つて、さよなら。御苦勞様。

威勢よくかけ出す男兒、優しくつれ立ちて歸る女の兒。

* * *

一同を送つて後の保母室は、それ／＼に其日の子達の可愛い現はれを語り合ふのが例ならぬ例となつて居る。

河 野 ヲ ノ

「Kちゃんのお母さんはいないの？」

「うん」

「亡くなつたの？」

「うん、しんだ。今頃のくらい時に」

「今頃のくらい時に？ さう」

「うん、それに赤ちゃんもしんだ。」

「まあ、ちやKちゃんはお父さんやおばあちゃんと居るのね、Kちゃんはみんなの云ふことをきかなくやいけないのよ。そしたら大きくなつたらえらくなりますわ。」

「うち(自分)海軍になるんちや」とうれしさうにさけぶ。ニコ／＼したこのいたづらつ子は、ほんとに海軍兵にでもなりさうだ。と私までほ／＼えむ。そんなことからKちゃんは何となく私の言葉をきゝわけてくれるやうになつた。

私の談話がすむと女子が「お遊戯しませう」と云ひ出した。色々の都合でこの頃あまりして居ないのであつた。男子は自由に遊びたさうなので別にして女子ばかりで輪をつくる。マーチにつれて元氣にすまして歩むことは！みんな揃つて餘念もない動作の愛らしさ。いつとはなしに男の子が集まつてきた。ふだん我が儘ばかりする子供達までが楽しさうにおとなしく寄つてきて眺めてゐる。

お坐りの時間——みんな静かになつたとき——Mちゃんひとり、家から持ってきた長い笛をビューツ／＼と吹いて

止めない。

突然、その前のお席にゐたRちゃん、たまりかねて「せんせい、Mさんはね、さつきからひとりで笛をふいてよるこんでゐるのですよ」まじめな愛らしい聲がひびきわたつて、みなは笑ひがこみ上げてきそうになり、Mちゃんはいそいで笛をしまつた。

「自然にまかせて」今はないMおぢいさんから伺つたなつかしいことば——。折にふれては思ひ出す。いとけない多くの人々に無理であつてはならない。しらす／＼自分勝手なことを幼いひとの上に強いては居ないだらうか。あせらずにゆつたりとみつめる心を私はもつと／＼持たい。お角力がすきな元気で上品だつたおぢいさんの笑顔をおもひうかべて、今日もしみ／＼と思つた。